

接合科学研究所 グローバル D&I 推進室活動報告 日本語学習支援者養成プログラム(発展編)

梅田 純子

グローバル D&I 推進室 室長

接合機構研究部門 複合化機構学分野 教授

2025 年 7 月 7 日（月）に、2021 度より接合科学研究所が本学日本語日本文化教育センター（日日センター）と連携している日本語学習支援者養成プログラムの発展編Ⅱ「〈やさしい日本語〉実践者としての再出発—やさしい輪を広げる第一歩—」を、ハイブリッド形式にて開催しました。

本プログラムは、日日センターが本研究所に所属する日本人教職員を対象として、留学生や外国人研究者とのコミュニケーションを英語だけではなく「やさしい日本語」を介して行うことにより、互いの理解を深め、研究環境のさらなる活性化を目指す取り組みです。これまでの基礎編～実験編～発展編Ⅰでは、外国人研究者や学生らと関わる際の言語的・態度的配慮などについて理解を深め、ケーススタディを通じて多様な価値観に触れ、互いの違いを尊重する姿勢を育んできました。

今回の発展編Ⅱでは、参加者が自らの言語生活の振り返り、新たな概念から捉え直すワークショップを実施しました。本研究所から基礎編と実践編を修了した 11 名の受講者と、日日センターからは本プログラムの主宰者である松岡里奈特任講師と前センター長の加藤均特任教授が参加しました。これまでに学びと日常の実践から「やさしい日本語」実践者として、「やさしい異文化間コミュニケーション」のロールモデルとなり、周囲の日本人に気づきを促すことを目的としています。前半では、日々使用している言葉を「わたし語・わたし文化」にマップ化し、客観的に観察することで、誰もが複言語・複文化であることを学びました。後半は、留学生・日本人・観察者の各役割に分かれたロールプレイを通じて、「やさしい日本語」での会話を観察して、より良い伝え方の提案手法を学びました。

また、来週からは本研究所に特化した日本語入門者向け講座「理系 VOD 日本語コース」が、日日センター藤平愛美准教授によって開講され、6 名の外国人教員・留学生らが受講予定です。今後も、本研究所に在籍するすべての構成員の多様性を活かし、誰もが学びやすい・働きやすい環境の構築を目指し、ダイバーシティ&インクルージョンの推進に積極的に取り組んでまいります。

